

上座法師圓詮

別當傳燈大法師位智照

俗別當左大臣從二位藤原朝臣良世

奉行

去年七月廿七日下  
諸寺并長谷寺宣旨

從五位下行左大史兼春宮大屬壬生忌寸望村

遣唐副使從五位守春兼行式部少輔兼博識政略朝臣長谷雄

中納言兼右近衛大將從三位行春宮大夫藤原朝臣時平

執筆遣唐使中納言從三位兼行春宮大夫式部大輔侍從藤原朝臣眞

右長谷寺縁起文傳云 天滿宮真蹟今以其摹本

書寫一校畢

當麻舅陀羅縁起

當麻寺北にありて用明天皇乃第三皇子磨子此親王  
乃建立の寺なりてわくら夢想れつをありて役行者  
此の寺のありて成りててこの寺をうつしきくみは  
過りてれよるまは乃うら大炊天皇御宇によこはまに  
行くとといふ人乃むあかいまあかのまを深きれうら  
にやいなはれをたまふれのほのいま一たぐま  
けらすこの君をまきあれ幾たまとたほし加新つく  
よぶら乃けりれこの中にあき野をなすきくあれあふ  
りにむせふれもひくあ起きりしのこととをるの

たれし心をたすけし阿婆陀法ににおまじをよめす  
 ぬり久佛乃みらけを川よく法のあころをよめむ  
 二れ小よらもて稱讚浄土經一千巻をよめく玉の  
 軸をよめの人あけひもをたらもてこの寺におまじ  
 きてまつる

画

ふのて天平寶字七年六月十五日は、  
 りをたごしてあまのたまにあまのたまをたごかくいそ  
 いそくまれりし生身れあまをよめてまつる者はこの  
 寺門をいそくまねてらふふ七日期をよめく心け

誠をこころせりしつるあまのたまは此年  
 きたりていそく祈念乃ころをよめく随喜れ  
 にかひよまをよめりてま禮あにたれり九品乃教  
 書をたごたまをよめくおまじつわきよめおまじ  
 けをよめくまをよめくにたまをよめく百駟をりけむへ  
 といつり願ま乃居これ事をうきく天聽にたよめす  
 にあ海連おたまをよめく近江國に課役してまらも地  
 小もよめくあ川流たりつる化居けつるまをよめく  
 きをよめくまをよめくをよめくをよめくをよめく  
 事つらひなしつるあまをよめくをよめくをよめく

阿本... 成... あり

画

はしあき井をわらに三信湛こころてかき澄こたり  
いせをひりてあむらよれいろ五色をうたひき  
さる人カ乃所わよあはれ神通乃方便ありみる人  
奇特乃たゆみをなす願を完れあまににおほるあ  
地のま瑞をおわあよむの天智天皇御時井乃ほ  
まよましくひのま張をま川石ありすれを勅使  
をゆしてすれをるをみせらるそれ石のころ佛像  
となせわりよましく弥勒乃三尊に彫刻して精舎一雲れ

建立をあまると名けらるにうた寺といひこの井乃  
本縁によりてけきらまるとるをり後行者あは佛  
庭よ末代乃法苗れを絶一本れ櫻樹をうくられたり  
人これ雲木といひり花乃いぬ茶韻をうたけらま  
く乃よあましくいぬれとらたとなけり一のれとをれ  
きねたあつりりまるとるやむのれいろをのこせの  
か乃豊地ふああしりてこ乃井をまがられまらり  
や

画

たあしきま三日乃遊ふへ化女一人まきれりすれ

かきらまやひつなる中 天女れも一化后めとひて  
 いまはけれ心をもすくにさうなるへさうを傍やとんか  
 すまらひるく乃いをもゆけららにわく二をを  
 ちう二鉢よひましてとりひとす雲れいぬぬ乃昔と  
 をしめていろえたをきまていぬのときよりごらけ時  
 お及て是なまもてきまもゆるりおりいをもきまも  
 後化后本尊后めん乃まらふ一丈五尺の曼陀羅一鋪  
 たを乃ちりあきを軸うてかきしてちう二れをた  
 ろもてまゆらにむをうてねてみるきたるのこころ金  
 をのこくかきわらるること一 狂嚴赫喪り一 光明遍照

まらまら化女れをむらめ五多乃とまにのりてい  
 かなひうのれきゆるのこころしてゆめぬ  
 化后本尊れ深義をときていんく南乃へわにを序分  
 を何れを新れれりやは三昧正交れむおとのん  
 中基ふの四十の能乃淨土れ相をさうのへ下方にハ上  
 中下品れ来迎の義をゆくまのとなりのこれきま  
 おあま二乃うををしわうといへさき心ハ九品の土  
 浦うゆかこ一を尊れ后のちくこ乃事をおりあ  
 に弥陀れ智願うて大聖れ定通なのとねめりす  
 れをらこれ生身れ如来をわのみにきてまゆら

極樂に在嚴をみるにあらずやあくに化后日向偈を  
川よりていそく

注首迦葉說法所 活基今來作佛事

郷懸西方故我來 一入是場永離苦

二乃偈をきくらふなるををたりのしたまひを  
ますと起小本願后あつくうは由來をさあは化后  
乃いそく王の西方極樂に教をたたりめわの  
左脇に弟子觀音なりといひそく西方をゆてまの  
ぬるれまのれきうたふにもてしてかくといふこと  
ホとはをりまらてのおといありとまはせきまは

たよ久王たかなきこれらりのむきをらして弟幾  
とせの

画

光仁天皇乃御宇寶龜六年三月十四日本願后に  
りあつことをなは生あま天をうくえはて熱雲  
なめたうをきたり音樂ありまきこは迦陵  
頻伽れと急川の波なり一正衆ひんがりにむら  
構は不捨らちひあやまのす美香ひあまの意  
あま瑞ひとほまららるる末世に孫事前代いま  
うあくなき

右當麻房陀羅緣起以相摸國鏡倉光明寺所藏後京極殿

真蹟書寫一校畢畫圖住吉法眼慶恩筆云

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

觀心寺緣起實錄帳

一寺壹院 在河內國錦部石川兩郡南山中

合山地千五百町

一寺錦部郡以□山中一千町 地名仁深野

四至

東限橫岑

西限紀伊道川并公田

南限小月見谷

北限龍泉寺北并石川郡堰

一寺石川部以南山中五百町 地名東坂野

四至

東限國見岑

西限□岑

南限上滝

北限石川家井堰

一寺美和三年閏三月十三日

官符

右當寺者先師和尚經行之伽藍北斗七星降臨之

靈山也峯聳八葉自表華嚴蓮刹谷行四方更摸月